

京都教区時報

小教区の頁—西陣教会
特 集—平和旬問(平和への歩み)

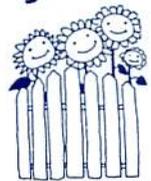
第92号

発行所
京都市左京区仁王門通新高倉東入
京都カトリック教理センター
広報室 (Tel761-9095)
編集責任者 村上透磨
編集部 教理センター
田中司教認可

平和への歩み

それは見捨てられ
今にも倒れようとする人への思いやり
手をさしのべる事から生まれる

「平和への歩みの集い」に向けて 7月〜12月



現代の社会の中すっかり根を下して生きようと思えば、平和の問題、技きにしては、考える事は出来ません。だからアメリカの司教団も、平和の挑戦という、アメリカ司教団教書を発表しました。戦争の恐ろしさを痛い程知る私達日本人は、広島での教皇様の心からほとぼり出る平和アピールに心をうたれました。戦争は決してしてはならない。戦争への引き金になる一切の危険は防止しなければなりません。

ところで平和を考える時、戦争のない平和の事だけを考えてよいのでしょうか。或いはキリストの復活の福音「主の平和」をただ霊的に甘美な思いで味わうだけでよいのでしょうか。でも、それさえ危うかしい現状です。

平和を脅やかすものがあります。それはただ人間を絶滅させ得る恐ろしい兵器を世界が持ってしまったと言う事だけではありません。戦争が起こらなくても、人類が減びてしまいかも知れない状況が、こくこくと迫っているかにさへ見えます。ミサの時「大地の恵み」「労働のみのり」と言いますが、今、私達が、この大地の恵みを忘れ、母なる大地を大病に至らせつつある事を気付かなくない様でもあります。母が減れば、きつとすべては減びる。それも一部の人の高慢、貪欲、飽く事のない

いエゴがその滅びを促進している事を知った。自分は無罪だと信じて疑わない私達日本人も、経済的発展と、科学技術の進歩に有頂点になっている間に、その最も責任ある加害者の立場に立っている事を知った。改心をしなければならぬ。胸をうたねばならない。特に苦しみを担っている人々にお前はあわれな輩だと、あわれむ前に、むしろ、私達の気付かない高慢やエゴのために、苦しめている人々、飢えと貧しさの中に死んでいく人々、人権を犯されている人々に私達は平伏してゆるしをこねねばならないのではないのでしょうか。

さて、人権と平和の結びつきについて、又教区ビジョンとの関わりについて、懸念をもつ人々もあると聞きます。ビジョンは、社会と共に歩む教会として、特に、弱い立場に置かれている人々に目を向けましようとしてきました。社会と共に歩む時、平和や人権の問題を無視して通る事は出来ません。高慢やエゴ(特にそれが、民族、国家、大企業等と規模が大きくなる程、問題は複雑化し横暴化して行くのです)が、高まるにつれて、人権は強い者の立場に立ち、弱い立場の人々が犯されて行きます。そして飽く事ない欲望は、戦争への傾斜をころげ落ちて行きます。戦争が起

これば、もはやそこに正義も愛も言っておれず、人権は全く犯されてしまうのは当然の成行きと言えましよう。

7月から12月にかけて「平和への歩み」の集いとして計画されたテーマを見る時、部落問題、障害者問題、労働者問題と平和がどう関わりがあるのかと疑われる方もありましよう。でもそこに確かに何かがあるのです。それを聞きにこの集いに出席して下さい。最近、国家予算において、防衛費の大幅値上げ、福祉関係予算の削減が取りざたされています。これはどういう事でしょうか。最後に人権の根本としての生命の問題を問いかけてみる事にします。戦争で人が殺されるのと、強盗に殺されるのと、母の胎内で殺されるのと、根本的にどこが違うのでしょうか。平和と人権問題の陰に私達は生命の事をどう思っているのかと問われている様です。

'84 平和への歩み学習会

—学び・話し・祈ろう!—

テーマ/「キリスト者の人権と平和への姿勢」

- 7月1日(日) 基調講演「人権と平和」 講師: 日本社会司教センター-山田経三神父 担当: 正平協(京都)
- 7月15日(日) 部落問題と平和 担当: 正平協(京都)
- 8月12日(日) 核問題と環境平和 講師: 精華大学 龍田助 担当: 子羊会
- 9月13日(日) 障害者問題と平和 担当: JOC, ACO
- 10月28日(日) 労働者問題と平和 担当: 信徒、修女、司祭
- 11月23日(日) 戦争への傾斜とキリスト者の姿勢 担当: 正平協(京都)
- 12月9日(日) 在日朝鮮韓国人問題と平和

時間 PM.1:00~4:30

場所 京都カトリック会館 6階

主催 平和への歩み実行委員会(正平協、信徒、修女、司祭、諸活動)

司教の足どり

5月〜6月



- 5月
 - 15日 大阪信愛100周年記念ミサに参列(於大阪カテドラル)。
 - 16日 宣教司教委員会。社会司教委員会(東京)。
 - 17日 東京神学院司教委常任委員会。
 - 18日 "
 - 20日(日)小山教会20周年・堅信ミサ。
 - 21日 教区付邦人司祭月例会。
 - 22日 司祭評常任委。小林司教来泊。
 - 24日 (日)京都教区カリタス会理事會。
 - 25日 (日)「諸宗教」代表来訪。デイフリー師歓迎會(希望の家)。
 - 26日 修女連役員来訪。
 - 27日(日)安土セミナリオ跡にて滋賀県合同堅信ミサ。
 - 28日 司祭評定例会。
 - 29日 N.I.合同會議。
- 6月
 - 1日 京都キリシタン研究会代表来訪。
 - 2日 M.M.女子学園理事會(四日市)。
 - 3日(日)三重県研宗館祝別式。三重県信徒大会(津)。
 - 4日 諸宗教委(東京)。
 - 5日 M.C.総長顧問来訪。N.D.理事會。
 - 7日 M.C.総長ならびに管区長と面談。
 - 8日 子羊会代表訪問。
 - 9日 庭野欽司郎氏一行来訪。

アフリカの兄弟のため〈オートボルタ〉
今年も歩こうウォーカソン
9月24日(奈良ブロック) 11月3日(京都司教区)



お問い合わせ/教理センターアネックスまで
☎(075)761-9095

- 10日(日)聖霊降臨祭。河原町堅信ミサ。聖親會(信徒會)総會に出席。
- 11日 衣笠嘉參。新納骨堂見学。女子カルメル会訪問。
- 12日 教理センター理事會。平和旬間委員会。
- 13日 亀岡教会訪問。園部教会訪問。
- 14日 司祭評常任委。こひつじの苑訪問。
- 15日 国際宗教同志會(立正佼成會京都教會)。
- 16日 南信協壯年部有志と懇談および夕食會。
- 17日(日)大和郡山堅信ミサ。
- 18〜23日 司教協議會総會。
- 24日(日) 唐崎堅信ミサ。
- 25日 教区付邦人司祭月例会。

みことばを書こう

聖書週間プログラム

●主催 京都教区・京都カトリック教理センター

◎書道作品募集

- 趣旨 聖書を生活の中に入れてゆく
- 出品資格 児童の部・幼児・中学生 成人の部・高校生以上
- 出品要領 出品点数1人2点まで 書体・大きさ・自由(横書き)
- 内容 聖書のみ言葉から 出品料 1点に付二百円
- 出品〆切 昭和59年10月15日限
- 送付先 京都カトリック教理センター
- 606 京都市左京区仁王門通新高倉東入ル ☎(075)761-9095
- 展示会場 京都カトリック会館6階
- 7 展示会期 10月29日(月)〜11月3日(祝)

◎聖書朗読コンテスト

- 趣旨 聖書に親しむ。典礼の中で聖書を正しく読む。
- 応募資格 中学生以下 15名 高校生以上一般 15名
- 朗読箇所 参加者が随意に選ぶ(以内)
- 申込〆切 10月31日 教理センター宛
- 5日時 11月11日(日) AM10時〜12時
- 6場所 京都カトリック会館6階ホール

講演会の御案内

講師 グスタフ・フォス神父
(イエスス会・元栄光学園校長)
日時 10月1日 午後1時より
場所 河原町カトリック教会
演題 「宗教に裏付けられた家庭教育 宗教道徳は、親から教えてもらうもの」
入場無料
主催 河原町カトリック教会聖親會

製菓材料・舶来食品
和洋酒・修道院製クッキー
ミサ用ブドー酒

タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通鳥丸東入
電話 (221) 0976-7

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀・貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町2-3
電話 (075) 312-7829
(075) 771-7577

向島に スヌーピーズハウス

重度心身障害者寮育作業所



社会の中にあつて弱い立場に置かれて
いる人々は数多くあります。その中の一
つに、重度心身障害者の社会生活の場は
殆んど開かれていません。養護学校に在
学中であれば、何とか居場所があつても
卒業後又は18才以上になれば、社会復帰
の場は殆んど閉ざされ、たとえ援産施設
や共同作業所に入所が許されても、仕事
について行けず落ち込んでしまい、家に
閉じこもり、中にはそのストレスの為に、
自分の身をさいなむ子も出て来る子も多
い様です。

そこで、彼等に合った療育作業所を作
る事が出来ないかと、養護学校教諭をし
ていた森津美知子さんは学校をやめ、他
の数人の協力者と父兄達と協力して、京
都府伏見区向島清水町にスヌーピーズハ
ウスを開所して、新しい試みを始められ
た。森津さんら、この施設にかよう五名
の人々は、6月3日、桃山教会の創立記
念日に招かれ、彼らの仕事を紹介し、協
力を依頼後、聖心パーティーにあずかり、
楽しい時を過した。

開所式には、後援会の皆さん、ドレミ
ファ人形劇団の方々、桃山養護学校の先
生等、100名近い方々に祝って頂き、励ま
しを得、心を強くする事が出来ました。
現在5名の方々が、スヌーピーズハウ
スに通っています。養護学校を卒業した
ばかりの、ホヤホヤ社会人一年生の仲間
達です。農地150坪の中に小さな建物があ
りその中で農園を中心に作業を進めてい
ます。障害を持つ子供達が、学校卒業後、
可能性をひき出し成長し合う事が出来る
豊かな社会生活の場にしたという願い
を柱に設立された「スヌーピーズハウ
ス」は、あくまで作業を、社会生活を豊
かにしていく手段であると位置づける姿
勢を大切にしたいと考えています。特に
「重度」と言われる障害を持つ人達も共
に、社会人として、少しでも豊かな社会
生活を営み、相互に学び高め合う事の出
来る場としていきたいと思っています。

「療育作業所、スヌーピーズハウス」
は今歩きだしたところですが、運営を支
える財政面の問題等、困難な課題をかか
えています。でも足を止めず、ゆっくり
でも前進し、一つひとつ解決していきな
いと思ひます。この度、桃山カトリック
教会の皆さまには、御理解と御協力をい
ただき、大変うれしく思っております。
今後とも、たくさんの方々のお理解と
御支援を頂き、充実したものにしていき
たいと思ひます。

(連絡先 伏見区桃山町大島38—322
Tel (075) 621-2933 森津方)



司祭評報告

5月29日 司牧評議会

ビジョンの具体化に向けて

司祭評で取り扱われた主な議題

- 一、教区創立50周年に向けて
- 二、記念誌発行の動きについて
- 三、司牧評議会設立準備委員会
- 四、河原町教会に障害者用エレベーターを設置する事について
- 五、平和への歩みについて、正平協提案の勉強会実施について。

一、教区創立50周年(昭和62年)

昭和12年6月17日大阪教区より独立して、京都教区が創立され(初代教区長、バーン師、のち司教、メリノール会)てから、昭和62年50周年を迎える事になる。

司祭評では昨年9月定例会議で、この問題が取り上げられ、更に2月16日に、基本的な線が示された。更に3月29日、「教区創立50周年に向けて」と題する、司祭評事務局案が提出された。

- ①基本姿勢としては教区ビジョンをさらに進めていく。
- ②昭和62年に何らかの記念行事を行う。
- ③記念誌の発行

以上を推めていく際にビジョン推進連絡協議会と常に密接な連絡を取っていく。

二、記念誌の発行

①主旨

①教区としての50年を見直し、将来に向けて役立ててくれるものとする。

②一部の人の、特に大きな小教区や地位ある人の意見よりも、教区ビジョンをすすめていく上で、弱い立場に置かれている達の声や、歴史を優先的に取り上げる。

③思い出話ばかりのものとならない様に歴史的に価値のあるものとする。

④そのため早急にすること

①各小教区、活動団体から、①の主旨に従って、年譜、歴史を教区事務局に提出してもらう。(少しずつ事務局に届けられています。今後ともよろしく)

②実行委員会の設立

各代表による構成されたメンバーにより、具体的なすすめ方をまかせる。

更に4月6日づけの次の4点につき、アンケートが取られ、今それを集計中である。

- ①基本姿勢としてビジョンを推進していく事について、賛、否
- ②50周年行事を行う、賛、否
- ③記念誌発行、賛、否
- ④実行委員会の設立、人数と構成。

同時に以下の主旨を實行したいとの田中司教の「教区創立50周年に向けての呼

びかけ」を出し、全教区民に協力を呼びかけた。

三、司牧評議会設立に向けて

5月29日、司祭評では、「京都教区司牧評議会設立準備委員会」を作る事を、2年半前に発表された「ビジョン本文」、「教会組織の近代化」に従い、田中司教に答申した。

司牧評議会については、修女連はじめ、各方面からの要望があり、司教はこれを受けて、設立準備委員会を開催する旨を発表した。

①名称「京都教区司牧評議会設立準備委員会」(略称、司牧評準備委員会)

②構成メンバー

司教、司教代理、教区事務主任
 ビジョン推進連絡事務局より2〜3名
 信徒協各ブロックより1〜3名(青年も含める)

修女連、3名位 司祭評、常任委員3名
 諸活動33名

③(イ)候補者を選び司教が任命する

(ロ)上記メンバー以外にも司教が任命出来る

④第一回会合を9月14日(金)〜15日(土)夕方開く
 ⑤教区レベルの事務柄を取扱う。

具体的な事、京都教区創立50周年に向けての活動など

以上の動きはみな、ビジョンの具体化に向けての動きである事に注目されたい。

四、司教座聖堂、河原町教会に障害者用エレベーター設置についての努力

弱い立場に置かれている人々に心と場を開くと云うビジョンの具体化の一つとしてまず河原町教会に、車いすの人々も自由に入出入り出来る施設作りを目ざして、関係者からなる委員会を作り、設置する事を前提として、その対策を検討中である。このため信徒各位の協力を期待すると共に、各教会にあっても障害者に開かれた教会作りを検討される様願っている。

五、ビジョンの具体化としての、平和への歩み学習会

その内容については前号P(P10)に報告したので、ここでは念のために、この歩みが、ビジョンの具体化の一つである事を指摘しておきたい。①「人権と平和」と言う副題にもある通り、戦争とそれへの傾斜によって人権を犯されるのは、まず弱い立場に置かれている人々である。②社会と共に歩む時は、社会の中にある問題、特に正義と愛を犯すものに対して、私達は注意深く、戦い、さとし、改めていく努力をしなければならない。

③平和と人権の問題は私達が現代社会に生きている上において、最も根本的なものであり、又この二つの問題は、私達の日常生活にも密接に関わりがある事を私達は実感させられるのではないだろうか。



教区民と手を

たずさえて

修道女連盟総会



発足以来九年、京都教区内修道女連盟は、教区に連帯し奉仕しながら現代社会に生きてゆくことを願い、歩み続けております。司祭、信徒と一緒にチームとして教会、社会に活躍する事に修道者自身を自覚させてきました。毎年上半期に開かれる修道女連盟総会は、修道会相互の理解、共同意識を育てながら、また連盟自身の見直し、刷新の場でもあります。今年5月20日(日)午後50数名の会員が各修道会から会場、ノートルダム小学校に集い、4時間半にわたり、教区と共に歩む修女連(テーマ)になるよう熱心な討議を繰り返しました。

お話しのもう一つの要点は、教区ビジョンの根幹は弱い立場におかれている人々との交りより強くし、そこから学びあい、共に考えながら進んでゆく事でした。

はじき出された一頭の羊をただ折り掃りを待つのではなく、99頭を置いて皆で一頭を探しにゆくのがビジョンの核心であり、修道者の一人ひとりがその「探しに出かける者」になるようにと強調されました。

短時間ながら問題提起を含んだ具体的な越知師のお話は、参加者全員の態度を積極的に変えて討議は総会を画期的に盛り上げてゆきました。

教区内280人余の修道者がキリストの福音を伝える努力を続けているのは事実であつても、福音をよりよく伝えるための話しあい、協力を求める等の発言の場がないこと、教区民が出しあつたものは互いに福音化に向けて話しあわれ、決められるはずの様々な事が、実はそうならないことに気付かせられました。

ある会員からはビジョン作りの過程で何回かブロック別の会合が持たれ、一部

の司祭、信徒、修道者がいっしょに参加しているものと、誤解していたという発言も聞かれました。確かに教区内の一、二のブロックでは信徒だけの一致、他のブロックでは司祭グループも加わっているのがオプザーバーの形といったもので、教区全体ではまだチームが整っていないことを越知師から伺いました。

ある会員から「あまりにも現状を知らず、ただ聞かせて頂いてびくびくりしました。教区の評議会には信徒代表の何名、修道者代表数名を送るように明日にでも動いていただけませんか」と卒直な意見が出されました。

越知師から「シスター方から積極的な提案があれば必ず実ると思う」と勇気づけられ、全員一致で左の提案を田中教区長に後日お渡しする好結果を生みました。

京都教区長 田中健一司教様

私共京都教区修道女連盟はバチカン公会議の精神にのっとり、同時に京都教区ビジョンの具体化促進のために、司祭、修道者、信徒三者一体の仮称司牧評議会を設立することを提案いたします。

一九八四年五月二十日

京都教区修道女連盟総会

尚、同じ総会の席上で今すさまじいまでの発展を遂げている韓国教会のエネル



ギーの源は、修道者が自分の修道会のためだけでなく韓国教会のために尽すことに因ると聞きました。またある教区司祭の意見として「ミサの司式と、罪を許すこと以外すべての事が出来る」とシスターが目覚めたなら凄いエネルギーが出るし、そのエネルギーを修道会だけでなく全修道会が寄せれば、驚くほどの大きな力になるのを知っていますか、修道者の一人ひとり

がそれに目覚めてゆくのが先決問題です。確かに修道者が修道会固有の目的と使命を果しながら、しかも現実の社会から宙に浮いた者ではなく、教区の兄弟姉妹と共通のビジョンを持つて歩もうとするならば、修道者がバチカン公会議の精神に照らして回心と刷新を具体的にすることは当然と思われま

す。またこうした自己評価にとどまらず、信徒の皆さん、時としては直接教会に関わっていない社会人、時としては他宗教者からの評価を問うて、真の自己の姿を見る事も大切と思われま

す。その報告を次号に紹介します。(Y)

お知らせ

●人事移動

九条教会 ニホン師(司教館)
 北白川教会 ウォアベール師帰国(二年間)
 奈良教会主任 ウイツクス師
 (オヘル師一時帰国)

●京都教区司牧評議会設立

第一回 準備委員会
 日時 9月14日(金)夜15日(土)夕方まで
 討議 教区レベルのことから、京都教区
 創立50周年に向けての活動など。
 主催 司牧評準備委員会

●第9回京都教区教会学校

リーダー養成研修会
 テーマ 「子どもと聖書」
 期日 8月3日(金)～5日(日)
 場所 京都カトリック会館 6階
 会費 一日 二,二〇〇円(昼食付)
 対象 教会学校、教養校リーダーになりたい方、両親
 問合せ先 西院教会 ☎075-841-1023
 教会学校教師会世話係へ

●第21回カトリック社研セミナー

——カトリックの教育理念を求めて——
 主題 「学校教育、これぞいいのか」
 期日 8月24日(金)～26日(日)
 場所 横浜雙葉学園/視聴覚教室
 締切日 8月15日
 (宿泊希望者は8月10日までに)
 (宿泊費は別途負担してください)
 参加費 四,〇〇〇円(日のみ、千円返付代金)

問合せ先 カトリック社会問題研究所

セミナー準備委員会

〒160 東京都新宿区北新宿一三二

☎03-362-4659

●カトリック労働者運動

(ACC) 月例学習会

ACCでは3月から月一度の研究会(生活の見直し)とは別に、月例学習会を始めました。ACC会員が、生活の中で日頃強く関心を持っていること、研究していることを会員同士で分かちあっていることを行なうというものです。これまで行なっていたテーマは「沖繩戦と基地問題」「高校三原則」「原子力発電と被爆労働者」「軍拡」などです。

原則的には会員の学習会ですが、会員外の人々への参加も呼びかけています。詳細は九条教会、西野神父までお問合せ下さい。 会費 無料

会場 九条カトリック教会 ☎三五六一三三

〒601 京都市南区唐橋川久保町10

●今年度のスカウト・サンデー予定

◆奈良ブロック
 日時 9月16日(日) AM11時から
 場所 奈良カトリック教会
 (田中司教司式による合同ミサ)

◆京都ブロック・滋賀ブロック
 場所 ノートルダム小学校(京都)
 大津カトリック教会(滋賀)
 (各ブロック内の年少部門参加)

主催 (日本カトリック・ポリスカウト指導者協議会)
 (CBS) 京都教区支部事務局

あなたも神の国の発展のために

自分の力を捧げてみませんか!!

レジオの概要

※レジオオマリエとは——

「聖母マリアのひきいる軍隊」という意味で、一九二二年にアイルランドのダブリン市で設立されたもので、信者の使徒職団体であると同時に自己成聖のための団体です。

※レジオ・マリエの目的は——

「汝等全世界に行きすべての被造物に福音を宣べ伝えよ(マルコ16ノ15)」というキリストの至上命令に従い、司祭の指導のもとに、祈りと使徒的活動とによって神の国(キリストの王国)の発展に協力しつつ会員各自の靈魂の聖化をはかることにある。

※レジオ・マリエの会員の特徴——

会員は聖母マリアに対する信心を特別に養い、自分の中に聖母と同じ心を作りあげ、そうすることによって、もっと立派にキリストを賛美し、同時に他の人々をキリストへ導こうとするものです。

※会員のつとめ——

(1) 毎週一回定期的な集会に出席すること(この集会は一時間半以内である)

万一己むを得ない理由で欠席する場合には必ずその旨を連絡しなければならない。

無届欠席は許されない。

(2) 集会の際に司祭の短い霊的講話がある。

(3) 集会の内容は主として布教に関係がある仕事、信者の家庭訪問、病人訪問、その他救霊に関する仕事及び司祭の求める種々の仕事である。

(4) 毎日聖母を賛美するために「カテナ・レジオニス」という短い祈りを唱えること。

(5) (追記) 入会してのち最初の三ヶ月間は試練期間(見習期間)といい、自分が会員

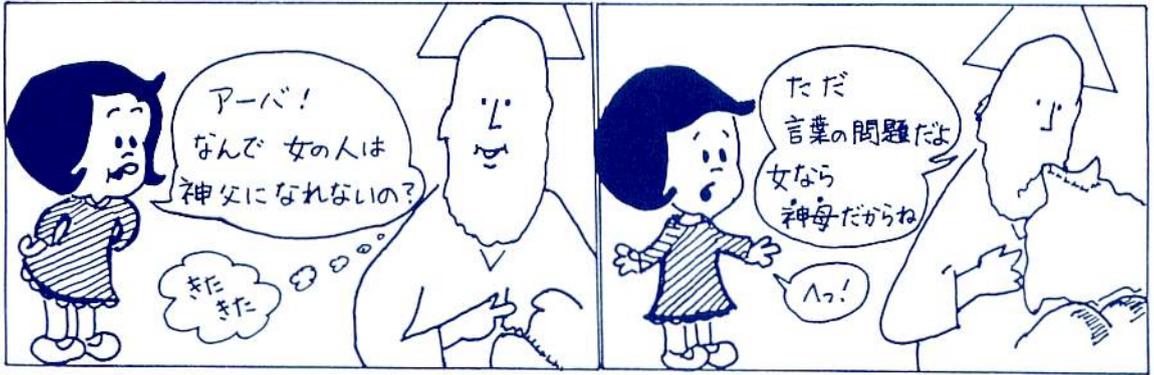
に適するか否かを試みる期間である。

詳細は京都コミチウム会長小森和輝氏(河原町教会)までお問い合わせ下さい。レジオ・アリエ京都コミチウム(京都教区レジオ・マリエ管理機関)

詳細は京都コミチウム会長小森和輝氏(河原町教会)までお問い合わせ下さい。レジオ・アリエ京都コミチウム(京都教区レジオ・マリエ管理機関)

ABB:おとうちゃん:神さま

J・アルフォンソ師(小山教会)



エリザベト音楽大学
——宗教音楽学科・受験講習会——

◆宗教音楽コース
◆宗教音楽コース
◆パイプオルガンコース

◆受験講習会：12月、募集人員30名
女子学生寮完備、高・中教員免許取得

お問合せ先／
〒730 広島市中区中職町4-15
TEL.082-221-0918
エリザベト音楽大学 フランス・ポーン神父宛

◆第18回巡礼 11月3日(土)～4日(日)は、
連休宿泊巡礼になります。
詳細は〒604伊丹市梅の木五―四―二六
長木村倅造宛 ☎三三七―七二六六
申込先〒607神戸市灘区篠原伯母野山町二
―四―一六甲学院 本田周司宛
申込締切 9月10日必着(ハガキで)

●日本二十六聖人
「長崎への道」巡礼

◆第2陣第9回巡礼
日時 9月9日(日) 午前9時
集合場所 阪急阪神今津駅出口
〒5 今津 夙川教会 高野教会 住吉教会 六甲教会 藤野教会 16 km

◆第17回巡礼
日時 9月23日(日) 午前8時30分
集合場所 岡山駅新幹線改札口前
(新幹線発着時刻3分、新大塚駅7時35分より乗車されるを)
〒5 岡山中幸川上 芳賀野聖マリア修女会 藤野山道
聖マリア 備中岡分寺 清宮23番(天徳行軍で備中山道を経歴
※いずれも御ミサあり、お弁当、水筒、ロザ
リオ、雨と暑さの対策をお忘れなく。

愛とは 孤独なふたりが
守り合い 触れ合い
互いの心に迎え合うこと
R.M. リルケ



〈男性〉 京都カトリック結婚互助会

生年	洗礼	身長-体重	職業	学歴	趣味等	希望
1 S.23	信	157-53	会社員	高卒	アマチュア「明朗無難 活動的な人、日曜大工	
2 S.26	"	165-62	自営(塗装)	高卒	「頼りになる人」	
3 S.22	"	161-58	会社員	高卒	釣 植木手入 「健康的な人」	
4 S.17	"	160-60	会社員	中卒	ボランティヤ 「共にミサに行ける人」	
5 S.18	"	167-43	会社員	中卒	魚釣 「着物のよく似合う人」	
6 S.27	"	160-51	中学教諭	大卒	スキー 「可愛い人」	
7 S.29	"	164-63	会社員	中卒	魚釣 スポーツ 「やせ型の人」	
8 S.29	末	166-62	生協	高卒	音楽 スポーツ 「やさしい人」	
9 S.23	信	172-90	会社員	大中退	読書 ドライブ 「明るく素直な人」	
10 S.21	末	168-60	自営(酒販)	大卒	魚釣 ゴルフ 「やさしく明朗な人」	

生年	洗礼	身長-体重	職業	学歴	趣味等	希望
1 S.29	信	154-46	会社員	高卒	茶会・読書 エレガーション	「おだやかな性格の方」
2 S.15	"	155-55	家業手伝	高卒	手芸・料理 スポーツ・読書	「生活力のある方」
3 S.21	"	158-46	養護施設	短大卒	読書・旅行 スポーツ観戦	「長身 やせ型」
4 S.28	"	158-43		大中退	絵画	「温厚・明朗」
5 S.23	"	153-46	カトリック施設	高卒	手芸・読物 旅行	「信仰深い方」
6 S.21	"	160-52	カトリック施設	大卒	音楽・読書 手芸	「知的な職業」
7 S.29	"	165-50	会社員	高卒	手芸・読書	「素朴・誠実な方」
8 S.33	"	163-55	高校教諭	大卒	スポーツ 映画	「スポーツの好きな方」
9 S.28	末	157-47		大卒	読書・読物	「おだやかな人」
10 S.35	"	155-43	幼稚園教	短大卒	ピアノ	「しっかりした方」

〈女性〉

京都カトリック結婚互助会は昭和53年3月発足。以来「社会と共に歩む教会」の一環として、各世話係一同頑張っております。婚姻を希望する未婚の男女を誌面にてご紹介致します。関心のある方は必ず文書をもって、小教区の互助会世話係又は高野教会内互助会事務局まで詳細をお問合わせ下さい。
〒606 京都市左京区下鴨東森ヶ前町7 高野教会 結婚互助会事務局宛

成立!! オメデトウ!

ユニークな館

三重県カトリック研宗館



三重県津市西丸之内
聖心カトリック教会
(主任司祭ジャクソン
神父)の隣接地に三重
県カトリック研宗館と
称する、名も外面も内
面も全くユニークな館
(ヤカタ)が完成した。
昭和五十九年六月三日
に、京都教区長、田中
司教の司式で祝別式が
盛大に行われた。

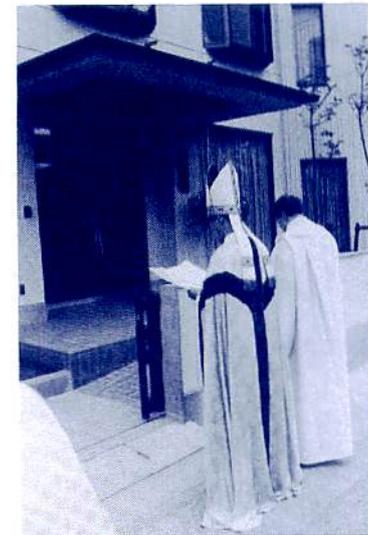
この施設は三重県の
中央部に位置する県の
首都、津市の中心部に
建設されたため、県民
信徒の研宗道場として
新しい利用方法が各方

面で見目されている。
特に第二バチカン公会議の精神に基く
信徒使徒職の実行が行い易い様に設定さ
れているので、聖職者ばかりでなく、一
般在俗信徒も大いに活用出来るとあって、
三重県下全般に大センセイションを巻き
起している。

開館当日は三重県信徒連絡協議会の主
催する三重県信徒大会が同館開館第一号
行事として行われ桑名、四日市、鈴鹿、
亀山、津、久居、松阪、伊勢、尾鷲、上
野、名張、三重県の全都市の教会、学校
から三百余名の信徒、修道女、司祭が参
加した。

大会のテーマ「信徒職への招きに応え
て」と題して田中司教の講話の後、分科
会を開き激烈なる討論研究が行われた。
その後上智大学教授安斉伸氏の「先祖の
お墓について」の記念講演田中司教の司
式で参加司祭全員の合同ミサで偉大なる
讚美の中に開館式を終了した。

ちなみに、三重県カトリック研宗館は、
鉄筋コンクリート三階建、延面積五四〇
平米で、全額京都教区が出
資、津の信徒、小野譲治氏
の献身的な監督奉仕によっ
て見事に完成したもので、
この館は津聖心カトリック
教会を長とする運営委員会
が維持管理することになっ
ている。館内には大会議室、
小聖堂、多目的会議室(堀
こたつを設備)、小会議室、
茶室(水屋、石庭つき)司祭



室、県下の教会所在の市名がかかけられ
た宿泊室十室を設備している。
司祭、修道場、信徒達の黙想会、エン
カウンター、研修会、勉強会、討論会、
信徒の集い、合宿等々利用範囲はひろい。
県外の信者の為にも三重県の殉教の地へ
の巡礼又は研究のための来津のついでに
伊勢志摩国立公園、伊勢神宮、三木本
真珠島等観光ルートの基地として宿泊場
を提供出来る。

隣接の教会境内には「世界に比類がな
い宝物」と云っても過言では無い程の殉
教時代のキリントン遺物の資料博物館が
あり、すでに全国各地から(海外からの
外国人も含む)の訪問客が絶えない。
津市で(現在の教会の百米東で)寛永
年間に殉教した中島長衛門、鯉江九衛門、
両武士の顕彰の館(ヤカタ)として、当
地の信徒会ではこの史料博物館と研宗館
との結び付きに深い関心を寄せている。

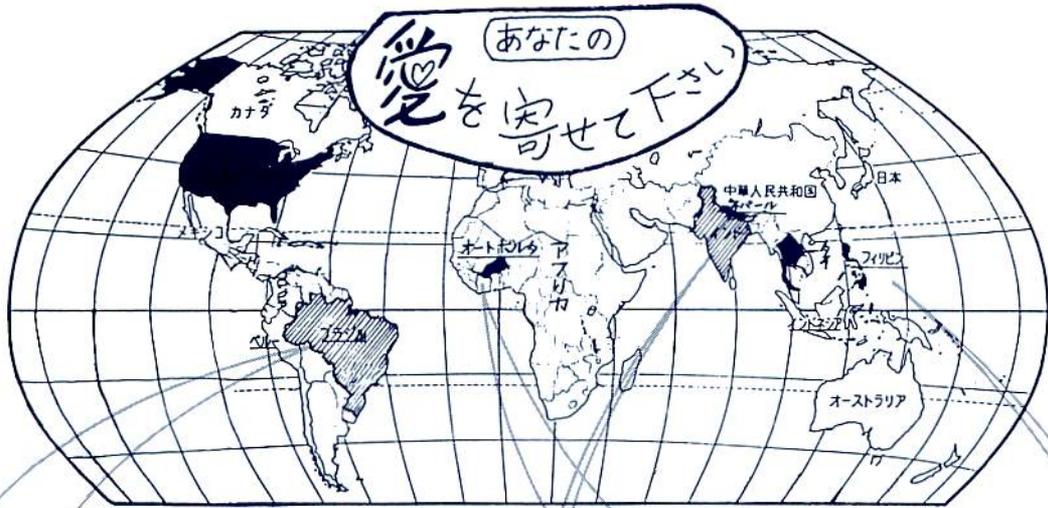
桃山教会と山国教会 姉妹教会へ

去る6月3日、桃山教会の創立記念日

去る6月3日、桃山教会の創立記念日
に山国教会の信徒の人々を招き、両教会
の姉妹関係を結んだ。これは昨年、聖年に
際し桃山教会の信徒が巡礼に訪れ大歓迎
を受け、共にミサを捧げた事に由来する。
姉妹教会と言っても別にこれと言った気
負いを持つ事なく互いに学び合い、励ま
し合い、祈り合う事によって助け合う事
が出来るとは思わないか。とかく人数の多
い教会がリードする立場にあると思われ
がちではあるが、かえって、いろいろ教
えられる事があるのではないか、又、少
ない人数で日頃心細い思いをしている
人々にとっては大きな励みとなるのでは
なからうか、等の思いもこめられている
様である。両教会の交わりがますます深
められ、よき実を結ぶ事を祈りたい。



両会長の象徴的鍵の交換



ブラジル●精神里親協会

1人に付月額5,000円

〒636 奈良県北葛城郡河合町中山台1-19-3
西大和カトリックセンター TEL.0745-52-2415

〒629-22 京都府与謝郡岩滝町浜町
カトリック岩滝教会 TEL.07726-2375

ブラジル(サンパラーナ)●診療所:佐々木神父

古着・清潔な古ストックキング・包帯

〒604 京都市中京区河原町三条上ル
京都カトリック河原町教会 TEL.075-231-4785

ペルー●募金

〒626 富津市宮本500
富津カトリック教会 TEL.07722-2-3127

インド(ムドライ:ディルマンガラン)

●ボーイズタウンの為の募金

◎有成基金 1人に付年間30,000円

〒612 京都市伏見区深草田谷町1
聖母学院 Sr.マーガレット・ホーマン
TEL.075-641-0507(時報No82参照)

インド(南西ホナワと5つの島)

●里親制度 1人に付月額2,000円

〒606 京都市左京区下鴨南野々神町1
ノートルダム女子大学
Sr.ジーン・シュミット
TEL.075-781-1173(時報No82参照)

インド(レブラ・ホスピタル)

●募金・清潔な古ストックキング

〒513 鈴鹿市神戸3-17-5
カトリック鈴鹿教会 TEL.0593-82-0540

タイ(ウボン)●募金

京都カトリック教理センター

アフリカ(オートボルト)●募金

〒606 京都市左京区仁王門通新高倉東入
京都カトリック教理センター
TEL.075-761-9095

今世界の(特に南の)人々が苦しんでいます。私達の小さな愛の手が少しずつ伸ばされています。ここに示すのは、特に里親制度を通じて、日本に居ながら助け得るほんの小さな方法です。たぶん外にも色々あります。その時、その場所・方法を当編集部にお知らせ下さい。

—協力の方法又は詳細は電話でお問い合わせ下さい—

フィリピン(チボリ)●国際里親運動

〒520-01 大津市唐崎1-4-1
メリノールハウス・畠山八郎宛
TEL.0775-79-1063(時報No91参照)

フィリピン●サラマッポ会・里親制度

1人に付高校生・年間3万円/大学生・年間5万円
〒526 長浜市元浜町12-38
長浜カトリック教会内
TEL.07496-2-1838
(事務局は東京・高輪カトリック教会)

フィリピン(バギオ)●奨学基金

大学1年間6万円/高校1年間3万円
京都カトリック教理センター

フィリピン(マニラ:レベリッサ)

●現地製作タオル販売
京都カトリック教理センター

フィリピン(マニラ・バギオ)●古着

京都カトリック教理センター

この人々にした事は 私にしたのです

平和への歩み

基調講演(人権と平和)

7月1日

山田経三神父

講演要旨概観

一、平和の原点—いのち・自然・文化

二、原点破壊の論理—強者の論理

キリストの論理

注、それに対し、キリストの論理は

人間尊重

特に小さい人々

強者の論理の基盤—力・資本・組織

強者の論理の至上目標—経済的發展

経済的發展の目ざすもの

開発(文化よりも)

破壊(自然尊重よりも)

戦争(生命軽視と破壊)

そこより「差別」の道

三、平和の原動力—信仰・希望・愛

四、平和の価値—人間尊重・平等・自立

五、平和の内容土台—人権・正義・真実

六、平和への実践—問題意識をもつ

取り組む

出会い・仲間作り

出会い・仲間作り

平和の原点は、いのち、自然、文化と
言う事が出来ます。ところがこの平和の
原点が、現在の世界の殆も至上目標の様
に見なされている経済的發展とそれに伴
う開発によって、くずされる危険にあり
ます。経済發展そのものが悪いのではな
く、ただその破壊的な方向を取り始めて
いる一つの大きな原因に、強者の論理が
勝ちを占めていると言う点にあります。ま
う。強者の依存するものは、力、資本、
組織であり、これら三つのものが人間の
手を離れて、全能者の如く闊歩しはじめ
ます。するとそこに当然、合理化やキリ
ステの論理が支配し、差別が生み出され
ます。その場合、キリストられるのは弱
い立場の人々なのです。しかしこのキリ
ステは、ただ弱い立場の人々だけでなく
人権の基礎となる、生命そのものをも軽
んじキリストでゆくのです。

それは個人が組織のために滅私奉行を
迫られるわけですが、全体と多数者のた
めに必要な事だと言います。でもこの言
葉にウソがあります。弱者の方が数から
言ってもはるかに多いのです。例えば先
進国8カ国に対し、世界にはそれ以外の
実に160余の国々とそこに住む人々の苦し
みがあるのです。多国籍企業についても
同じ事です。私達は常に詭弁に欺されて
はなりません。だからいつも蛇の様に賢
くなければならぬのです。

経済的發展は平和と安んじを築くも
のだ。と言う強者の福音のもとに、相手
の利益よりも、自分達の利益を求めて開
発が進められてゆきます。

然しその結果、自然が破壊され、土地
が死滅化し、植物が育たなくなり、生命
の危険にさらされる事となるのです。人
間は自分が万物の霊長と思ひ込み、すべ
てを生かし、支配していると思っていま
すが、これは大変な人間のおごりです。

「この世で生産者は植物であって、他
は消費者である」私達はお金(資本)で
生活を支えられていると思っているが、
「生命は生命によって支えられており」
生命が生かされるのは、自然と土地であ
り「土、自然こそは命」と言う事に気付
くべきであります。

さてこの様な事に対して、キリスト者
はどういう人か、キリスト者は、キリス
テをしない人である。強者の立場よりも
弱者の立場、つまり人間尊重の立場を常
に取るうとする。そのため特に物質万能
のおごりを捨て、質素を旨として生きる
生き方を取る人、これこそ託身されたキ
リストの福音の生き方であり、小さい人
の小さい道であります。キリスト者こそ
真に世界に託身し、真の平和の原点を大
切に生かす事の出来る善の人々です。

強者の論理の側に立って自分達の立場
を守るためには弱者の力を分断させる事
です。もし弱者が、自分の事のみに取り
こになつていてと強者の思うつばに入れ
られてしまします。弱者のその立場から
の解放は、自分達の共通の問題点、価値
つまり人権、自立、平等等、根っこの所
で、他人のかかえている問題を自分の問
題として意識し合い、話し合う事、その
ため、出会いと仲間作りをしなければな

りません。
連帯の原動力となるものに信望愛があ
ります。信の字の通り、人と人がよりそ
う言行が一致する信仰が実践の中に生き
る。つまり小さい人々の生活の中に受肉
すると言う事です。希望とは、どん底の
生活を強いられる人々のすぐ側にいて、
彼らに生きる希望がある事を証する
事。愛するとは、「共に十字架を荷って生
きる生き方」です。

十字架を通して復活へ、これが平和へ
の道です。その道は険しく、この道に対
立する人の力は強くとも恐ろしいので
す。それは人間を非人間化する強大な力
組織構造の中で猛威をふるいます。だか
ら神の武器を身にまとわねばなりません
(エフエソ6・10・18)

よきサマリヤ人のたとえを読む時、単
に同情を促すのでなく、自分の生きてい
る組織のケーブルから出て行く事を強い
られる。そこに留まる限り、根本的問題
は解決しない。出て行った時、その根っ
この問題が、実際の出会いを通じて解決
の糸口を示してくれるのです。

最後に私達が作り上げて行くべき平和
の味について一言したい。
具体的には(1)人間が人間として大切に
される事。(2)正義に根ざした平和である
事、尚正義の義は羊つまり神の前に自分
を置く状況を示しています。(3)平和はウ
ソに築かれてはならない。(4)更に「付
きの平和が実に多い。だからその平和と
言う言葉の味をよく吟味しなければなら
りません。紙面が過ぎました。(尚詳しい
事は後日の報告書を必覧されます様に)

人権尊重の忘れられた平和

.....空しい.....

部落問題と平和

7月15日、平和への歩みの第2回の集りが、河原町教会地下ホールで行われた。まず、「おばあちゃんの遺言」というビデオを見、どこにこの問題があるかを考えながら見る事にした。後、約6グループに別れ、約30分の分かち合いをし、後、井上新二氏の解説を聞いた。御存知の様に氏は正平協の中心的メンバーであり、自身同和教育に携わっている方であり、「わたしを解放するもの」(女子パウロ会)の著者である。キリスト者として部落問題を考える上で必読の書である。一度、読まれる事をおすすめする。

又本時報でも53号から59号にかけて、この問題について書いていただいている。ここでビデオの詳細を述べる事は紙面の関係上割愛するが、実に部落問題について考えさせられるものであった。是非一度御覧になる事をおすすめする。正平協の人に頼れば貸していただけると思う。その中で識字教育がどれ程大切であるかを知る事が出来た。

彼等は文字が読めない人と言うより、奪われた人々。文字を知る機会を奪われた人々である。字を読めない事がどれ程大変な事か、それは現代社会生活において、社会生活は勿論、生命にかかわる事である。文字の読み書きが出来ないと、例えば、買物が出来ない(値段がわから

ないから)、乗物に乗れない(行先を読めない)、病院に行けない(手続きが出来ない)、道もろくに歩けない(種々の標識が読めない)、まして新聞や本は読めない、この時報も読めない、教会のおしらせも勿論読めないでしょう。

私達にとって当り前の事が、当り前でない、然し彼らが怠けたのではない、むしろ社会の環境と歴史がそう追い込んだのです。ある文字を憶えた人が空を見上げ、ああ夕日がこんな美しいとは知らなかったと詩に書いたそうである。これが何を意味するものであるか、そこには文字を識る事が人生観の転換と関わっている程深いものがあるのです。

彼等の生活は次の様な悪循環の中にある
不十分な教育 → 不安定な仕事
不安定な暮し → 不安定な仕事

この生活の悪循環はもとを正せば全く政策上作られたものである事が歴史的に証明されています。

このサイクルに追い込まれた人々は、**結婚差別**。部落出身の故に結婚出来ない人々、そのため生命をすてる人。**職業差別**。劣悪な労働条件の中に追い込まれています。又人が汚れるとしていやがる仕事に追われるとか。この差別は結局、教育の機会を奪われている事によるのです。

教育差別。まず彼等は文字を奪われた人々です。それは後天的な思考力にも多に關係してくる様です。

劣悪な住居環境。不衛生な場所、火災がおこっても消防車も入れない土地、災害にすぐおそわれてしまう川地や山地等。**差別は死後にまで及びます**(成名問題、幕地の問題)

***部落地名総鑑**(これが職業差別。結婚差別等に悪用されるのです)

これらの差別は、彼らの健康状態を著しく害し、更に貧困へ、更には教育の機会喪失へと悪循環して行きます。

更に恐ろしいのは、人の心の差別でしょう。それを社会や親たちが子供達を軽蔑に満ちた差別観で教育し、理由なき差別者に仕上げる事なのです。

ではキリスト者は差別しないか、愛があるから差別しないのか。でもどうでしょう。むしろキリスト者の中に、すごい差別観があるのではないか、愛を主張してその土台となる正義、権利の事をなおざりにしていないか。

「門は開かれています。誰でもおいでなさい」それだけで良いのか。出かけて行ってその痛みを分かつサマリヤ人の心こそキリスト者の心ではないか、本当に心の扉を開いているか。

私達は、世間一般の人々の考えと全く同じ様な考えのとりこになつていないか、例えば「寝た子を起こす様な事をするな」「そっとしておく事こそ愛である」「彼らは乱暴で、無知だ、けがれている」「政府は同和对策によって、彼等を優遇

している。かえって逆差別だ」
これらはみな間違つた考え方なのです。それを今一々説明する事は紙面の関係上出来なくて残念だが、少くとも自分達の間違いに胸打つ事から始めたいものである。その事については後に出される報告書に述べられると思うが、高疑問のある方は、前述の井上新二氏の著を読むなり

正平協の人々に尋ねるなりして疑問を解決していただきたい。この疑問を解決する事は、福音の最も深い問題に取り組み事になる事を付け加えたい。

最後に人権と平和、キリスト者の関わりについて、一言述べて報告を終りたい。結論はこうである。一切の差別を許さない思想が「戦争への道」をばはむのである。豊かな人権思想に支えられた平和への取り組みが平和を生み出す。個人個人の人権と生命権とが確立されないので又他者のすべての人権が尊重されない所で、平和の言葉を語ってもそれは空しい言葉にすぎない。又最も虐げられている人々の事を思わずして平和は語れない。

キリスト者とはただ愛を語る人々ではない。生命を語る人々、生命を伝える人々である筈。生命を大切にしている人々、その生命を軽んじられる人々と共に生きる事、これこそ、小さき者と共に小さき者となり、小さき者に福音を告げられたキリストと共に生きる事ではないか、又それ以外に、福音の道はないのではないか。部落の人々と関わる事は、彼らを助けあげる、救つてあげる事よりも自ら救われる事なのである。

「神様よ雨を降らせよ」

水のありがたさを

感じていただけますか？



シスター
ベロニカ水島洋子さん
(マリアの宣教会
フランスシスコ)

アフリカのセネガルに2年オートボルタに3年他モリタニアなどに修道会から派遣されて、10年近く日本を離れておられこのほど帰国。6月17日横浜の戸塚修道院にてインタビュー

オートボルタの概要

一九六〇年フランスより独立したボルタ共和国で、軍が政権を握っている。国の面積は24万km²、人口600万人程度。公用語はフランス語、他に部族が40位。サハラ砂漠の南西に位置し、サバンナ(大草原)がある。気候は熱帯の雨期と乾期に分れている。産業は農業で、キビやとうもろこし、落花生が農産物。雨期の雨次第で雨が降らなければ餓死者が出るという。貧しくて何も無い国。干ばつを大変恐れているが、今年は特にその干ばつがひどい。外国の援助で井戸も掘られているが、水枯れたりしてどうして水を確保するかと云うことが深刻な問題である。



オートボルタはフランスの植民地であった為、公用語はフランス語ですが、公などころ以外、ほとんどの住民は分らないようです。他に部族語が40位あり、場所がかわると言葉も異なる為、私は、商売をしながらオートボルタを廻っている商売人の言葉を覚ええました。その言葉を解する人が比較的多く、言葉が分れば通訳してくれる人が必ずいるのです。

国民性と云いますか、ここではどんな人であっても、信仰心、宗教に対する神偉大なもの、絶対的なものに対する畏敬の念があり、日常の事柄はすべて神様に結びつけているのです。例えば雨期になつて種を蒔くと天を仰いで雨を待つのです。「神様よ雨を下さい」「ザアーツ」と雨が降ってききますと「神様、ありがとう。雨が降らなければ、今日は下さらなかつたが、明日はきつと下さるだろう」と待つのです。貧しくて何も無い国ですが、とても明るく、そして希望を持っています。待つということとは即ち耐えるということとです。柔和で、忍耐強く、素朴で日本人に忘れられていることが、ここ

生き方だと思いました。10年振りに日本に帰って来て、物質の溢れた社会にびっくりしました。その中で一つ気付いた事は、物のあり余る中で感謝して生きているのかという決してそうではなく、反対のような気がしました。バケツ一杯の水がアリガタク、ちよつとした事が「アリガタイ」「アリガトウ」という現地の人々は物でも何でもすべてが感謝につながっています。アフリカで見た人達のような素朴さ、明るさ、屈託のなきが無いのです。みんな疲れた様な顔をしています。

アフリカに行った当初は、常識として持っていた事がグラグラと崩れてゆくのを覚えました。例えばほとんどの人が時計を持っていない。時間の無い国。そこで人を待つ事、耐える事、今を生きるという生活を見た時、何ぞそんなに急がなければならぬのか、急ぐのが当然だと思っていた常識が崩されていくというような事が沢山ありました。しかし本場の「幸福」とはどちらなのかということですが、オートボルタでは土地の修道会等もありますが、外国からオートボルタの為に来たという修道会共通のものがあるので、「うちの修道会」を超えたつながりが出てきます。派遣されて来ているシスターも数が少ないので、何か一つの事をする時にはお互いに協力し合います。二・三の病院で働きましたが、そこでは一修道会が契約を結び、四つの修道会のシスターが働いていました。

現地ではよく中国人と間違えられます。

中国は多くの援助をしています。例えば沼地があると稲作の指導をするので、水があれば貧しい土地であっても何とか稲が育つのです。又もう一つは病院を建てて、中国から医師と看護婦を送り三年交替で動かしているのです。他にもアフリカの諸国にはかなりの援助をしています。モリタニアに行った時は、海水に替える工場の立派なのが出来ていました。私の顔を見て「シノアズ(中国人)」「私は日本人!」と言うと「日本人?」知ってる、知ってる」何を知っているかと云うと「モーターバイクの国」という感じと「在留している日本人は?」と聞くと私の他に一人と云う。売り込むだけで具体的な援助は何もしていないというのが現状で悲しい感じがしました。

これからの日本の共同体で大切なことは、修道会を超えた自分の教会の意味を考えていく事が必要なのではないでしょうか。日本は日本として留まっていますが、日本以外の方々(難民)が日本に入つて来られるわけですが、そこには神様の御旨があるのだという感じがするのです。私は修道会から派遣されたわけですが、再び派遣される場合は日本からという意識を持って行きたいと思っています。いろいろな体験をさせていただき大きな恵みだったと思います。随分物の見方も変わったようです。このような体験を少しでも多くの人々に分ち合いたく、又分ってほしいという気持ち一杯です。

アフリカから見た日本の教会

タムタムの太鼓でささげるミサ



道会を超えたもつと教会的なセンスがあるという感じがします。日本では感じなかったものを感じました。司教区が小さいということや人が少ないということもあるかも知れません。又よく司教様が訪ねて来て下さいますし、何かあると直ぐ司教様を中心にして、信徒も司祭も修道者も一緒に集ってという機会がよくあります。司教様とのつながりというのも大変大事であるという気がします。

現地の人々が神父様を見る時、部族の酋長というイメージで見ている様です。非常に尊敬すべき方で頼りがいがあり、その方に従いたいというような感じがあります。又上下関係の強さは全く感じません。ですから部族の酋長も遠い存在ではなくて、自分たちといつも一緒にいてくれる人という感じを受けました。

―信徒の働きはどうですか
 「大きな町の教会では、日本とあまり変わりませんが、奥地に行きますと司祭の来られる回数が少ないので、信徒の役割が大きくなってきます。信徒が中心の「みことばの祭儀」とか地域によって差はあります。」

―洗礼志願の制度が三年と聞きますが「結構厳しいと思うのですが、伝統的な生活習慣とかイスラム教の影響とかを受けている為、色々な面で理解させ、受け入れさせていくという文化的な下準備などが必要なので、三年かけての求道者の期間は徹底して行われています。私の居た所では、一年目にはロザリオ、二年目には御メダイ、三年終了しますと十字架を貰って受洗資格を得るということにな

―司教様と信徒のつながりなど
 「司教様と信徒、司教様と修道会、修道会同志、と超修道会的な結びつきがあるのです。一つの小さな教区の集まりとか修

っています。三年間のプログラムがきちんと出来ていて、その間に何日休むと失格と決っていますので、かなり厳しいようです。教育は司祭や宣教師ですが、シスターやカテキスタの方も教えています。」

―教会、また典札について
 「日本の教会に關して一つ感じることは、日本の教会は宣教よりも司牧中心の教会ではないかと思ひます。アフリカの教会は積極的に宣教しようという意識が信徒の中にもあります。」

オートボルタに着いて間もなく、奥地にある教会の司祭の叙階式に参列しました。土地の文化が典札の中に生きていて、感じて、奉獻をする時、みんな踊りながら捧げ物を持って行くのです。伴奏はタムタムの太鼓とバラホン(シロホンの様なもの)と瓢箪を乾かしたものです。殆どの人が文盲のため、20番位ある歌詞でも全部暗記してお腹の底から歌います。もう一つ土地の習慣として喜びの時は、最高の賛美の仕方として奇声をあげるのです。「ウォー、ウォー」と凄声を出します。一人一人があちこちであげますので、響きわたるので、ほんとうに祈りがはたっていく様な感じがします。聖体拝領の後などは司教様と祭壇を囲んで踊るのですが、これは激しい踊りではなく祈りの様な静かな踊りです。参加している人たちが踊るといふ日本では出来ないものを見せられました。

―誓願式には参加者(民衆)と誓願をたてる人、叙階されようといっている人に対して参加者が「あなたは本当に司祭になるつもりですか」と問うのに対して「そ

うです」と応答しながら行われます。立派だと思ひました。私が与った一人の司祭の叙階式では、村全体のお祝いという感じでした。又お葬式の時などには、悲しみの動作や踊りがあります。ミサは土地の言葉で行われ、生き生きとした土地に、文化に、根付いています。奥地の方では、村こそつての改心があるようです。日本でも、もつと自然に養われてきているものを何とか生かされたいものかと思ひます。」

―日本の教会、日本人に望まれることは「もつと外に目を開き、関心を持って日常のいろんなことに、日本という枠を超えたものの見方をしてほしいと思ひます。又、アフリカにあって祈りの重みをすごく感じました。混乱した中で、一日一食しか食べていないと云う。貧しい兄弟がいるのだ」と云うことを知ってほしい、同時に、祈りを必要としている人達のために祈りの輪を広げてほしいと思ひます。そして物質的な援助もお願いできればと思ひます。」

―海外宣教について、又海外協力隊と一本化していくという話もあるようですが「だんだん世界がせまくなってきますと交りも深くなってきますので、日本の教会だけでなく世界の教会の必要性、小教区とか教区を超えて、世界の教会の一人として一人一人が広いビジョンを持って教区で働いてほしいと思ひます。教会というものは、全部を超えた一つのものではないかと思ひます。」

―マリアの宣教フランシスコ会(シスター・ペロニカ水島洋子)

マリアの宣教フランシスコ会(シスター・ペロニカ水島洋子)

★小教区の頁★

西陣 聖ヨゼフ カトリック教会



我が西陣聖ヨゼフカトリック教会は、よく知られているように京都市内では河原町教会につぐ古い教会で、一昨年創立七十五周年を祝ったばかりです。現在の教会の位置は、便利なようで不便なところにあるためか、どうやら隣接の教会へお行きの方(そう信じています。)も多いように見受けられます。

現聖堂は三十五年前に献堂されましたが、高野、伏見、西院などと同じ建て方で、これは、メリノール会のプラザー・ウイリアムの御尽力によることを忘れることは出来ません。

すでに御承知のことと思いますが、当教会は日本二十六聖人殉教「長崎への道」の等一番札所に定められています。それはこの教会の近くに二十六聖人の殉教の地である一条戻橋(彼等が捕えられて長崎へ向う前、耳をそがれた跡地)が存在することに因んでいます。そこで、西陣教会の前に、そのことを紹介する札を立てる動きが出ております。

信者は、西陣織に関係のある職業の方が多いのは当然ですが、もう一つの特長は、聖ヨゼフカトリック教会の名にふさわしく、大工、塗装業、デザイナー、画家、表具師、洋裁家といった、芸術家やすぐれた腕を持つ人がひしめいています。聖堂横には、クラフトクラブの小屋があり、営繕部のホーム・ベースともなっており、教会内のちよっとした修理、修繕はもちろん、少し大がかりな工事等にも積極的な協力が得られます。

現在の信徒会は、壮年部、婦人部、青少年部(日曜学校)を縦割り組織とし、まとめ役としての総務部、そして、典礼部、会計部、営繕部、広報部、教育部(日曜学校担当)、会館運営部、レクリエーション部等の諸活動部が設けられ、信者それぞれは自己の特性(能力)に応じて何れかの部に属して教会運営に協力することになっています。と、こう書きまస్తుいかにも

全信者が一丸となって活動しているように見受けられますが、残念ながら未だそこまで至っておらず、一人で幾役も受け持っておられるのが実情です。新会員のM氏も就任の挨拶で、全員参加の方針を強調されました。

当教会に信徒会が出来てからすでに十五年以上経過しますが、尚初期の目的を達するに至っていないわけですが、しかし、それは西陣の信者が不熱心であるということではなく、組織になじめないという体質的な面に原因があるように思えます。一人一人は皆、すばらしい能力を持っています。組織を通さず個々に協力していただけるのではないのでしょうか。

当教会の目玉の一つとして「青年会館」の存在があります。これは今から約二十年前、キーン師の御尽力により建てられました。当時の日本経済は未だ高度成長期に入っていないく、西陣地区に住み込みで働く若人達の憩いの場も満足にありませんでした。それで、そういう青年達のために設けられたのがこの会館です。実際、多くの若人が、毎晩教会に集ってききました。九時十五分に消灯、そのあと聖堂で夕の祈りを唱え、皆、家路につきました。(なつかしい思い出です。)

しかし、時代は変わりました。独身貴族という言葉が生まれた程、青年達の経済状態は良くなりました。労働時間も短縮されました。青年達の志向も変わってきました。そこで、会館の利用者や利用目的も変わってきています。現在の会館は宿泊利用



の他、年間を通じ地域の各種サークル、学習会等がフルに利用しております。今後の課題は、これらの会館利用者と教会とのつながりをどのようにして強めていくかということですが。

最近、当教会に「信睦二金会」なるものができました。これは、お年寄りが毎月一回第二金曜日に集り、御ミサ、聖書のお話し、昼食、ロザリオ、雑談等を通じ互いに信仰の確認をし合い、永遠の生命につながる死を迎えることについてまでお考えとのことです。

最後に、当教会の納骨堂は、衣笠の納骨堂が種々の事情で御利用になれない方のため、お受け出来るよう配慮いたしておりますのでよろしく。(広報部)



私たちが捨てた

食物が叫んでいます

世界の飢餓が救える筈だと!

寺 西 弘 教

七十億ドル、日本円で一兆六千億円以上。これは日本、アメリカ等の豊かな国の国民が一年間に捨てる食物を金額に換

ある偉い文学者(えへん、地下にもぐっているから地上の書物を読まない等とあなどり給うな)が申されている事に、「とかくこの世は住みにくい、住みにくさが高じると住みやすい所に引越したくなる」とか、

でもねあなた、ちよつと聞いて下さいませんか、今私達の住む大地は大変な恐慌を来しているんです。この土地の荒れ様、凄

いですね。例えば宅地造成。快適な住み場所をと云う事で、私達の頭の中は連日連夜のブルの音、森を切り倒したら何が起くるか、あなた長崎の大水害の事、御存知でしょう。地上のかしいみなさんには聞こえないでしょうが、木々が切り

算したものです。これは、まだ十分に食べられる、殆んどが手のつけられていない状態の食物です。捨てる量の最も多いのは日本、アメリカ等の家庭です。そして、学校給食、レストランが続きます。日本では食糧の七〇パーセント以上を諸外国から買入れています。お金を出して買ったのだから、捨てようが腐らせようが自由だといえるのでしょうか。

今、アジア、アフリカを中心に、飢餓のために死に直面している人が五億、極度の栄養失調状態にある児童が四億、そして一時間当り千五百人と人々が飢えのために死んでいます。

「ここに供えるパンはあなたからいらしたいたもの、大地のめぐみ、労働の実り、倒される「バサツ」というあの音、私達には、「人間ってバカだな」と云う悲痛な人間への思いやりの叫びなんですよね。あれ、私達を倒したら、私達が与えていた、新鮮な空気やイオン(?)も失うし、それから、水と云う天使にも悪魔にもな

人。地にかわって自訴つかまつる地を大切に下され

それは人のためにごさる

れる怪物を上手にだめておったのに。「それみんなあなたの方のためだったのに、」ってね。田畑に住む仲間の話では、近頃、すごい機械が発明されて、非常に上つたらだけ相手にしてくれるけど、心をこめて底

わたしたちの命のかてとなるものです。私達はミサの中でこのように祈っています。食物は神様の恵みであり、多くの人々(外国を含めて)の労働によって得られたものであり、全人類の生命のかてとなるものです。お金を出したのだからといってこれを捨てることは神様に對する志意ではないでしょうか。私達が捨てている食物は、今飢えている人々の分ではないでしょうか。

飢餓の中にある人々の多くは、戦争、特に内戦のために、更に痛ましい状態に追いこまれています。戦争のために、救援の食糧の輸送は困難を極めています。また、戦争のために農作業は出来ず、自分の手で飢えから脱出することは来年

深く出合っていない。その上に前なら人間のあなたかみのある栄養を送ってくれたんですが、今じゃ、ものすごい強力な、化学肥料(食料でなく肥料ですぞ)を送って下さるんです。私達に心があるのを忘れてしまったんと違うやろか。近頃、土の方もくたびれてしまつて、使いつての状態に追われてしまつています。何とか効率ばかり考えんと、大地の心というもんを考えると

もらえんやろか。近頃悲しい報告ばかり。戦禍の地から飢餓の地がふえて、そこはみな大地が荒され、もう死地ばかりがやたらに増えている。人間様あなたを思って申します。どうか考えな

おして下さい。

も望めません。戦争は飢餓を生み、飢餓が戦争を招いています。飢餓を根本的に解決することは、平和につながることで

各教区で平和活動が行なわれていることがカトリック新聞にも報じられています。それらは、特定の人々、或いは特別なグループの活動が多いようです。勿論このような活動は、一般の人々の平和についての関心を高める上に大きな役割を果たしています。しかし、特定の人々の特別な活動は、中々に浸透し難いものです。活動は家庭の日常生活に組み込まれてこそ、本当の活動になるのではない

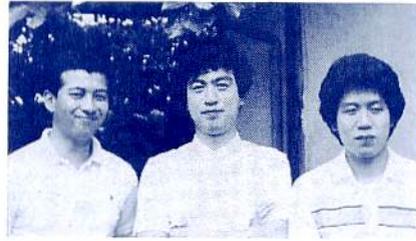
先ず、家庭で、私達が捨てている食物を今飢えている人々に返そうではありませんか、七〇億ドルあれば、アフリカの飢餓状態を救うことができます。現在の飢餓状態だけでなく、アフリカが将来にわたつて飢餓状態におちいらないようにすることが出来ます。

家庭で、食べ残して捨てる程に食事の準備をしたり、買い入れたりしないようにしようではありませんか。少しばかり足りないことがあつても、その分は、今飢えている人々に献げようではありませんか。

月に一度位は、食事の質も量も節減して、その分を飢えている人々に返すようにしてはどうでしょうか。統計は大養道子著「人間の大地」中央公論社刊を参照しました。一読をおすすめいたします。(桃山教会)

社会と共に歩む人物記(15)

三人パウロ (高野教会)



川原由朗くん 家一郎くん 西田正則くん

教会を愛し、人々を愛し、教会と人々に自発的に尽す(教区ビジョン)若い信徒の姿は、あなたの小教区にも見られるでしょう。教会学校、学生時代を通して、社会人としても心の通う仲間同志(キリストへの道の同行者)川原、家、西田三君にインタビューを試みました。自己紹介の結果三人揃って中学以来ずっと同じ高野教会でのおつきあいである事が判りました。

「青年会の現状は?」
I「名簿上では多いのですが、レギュラーは15人そこそこです。でも、教会の活気は一番カン高い子供の声のような、青年の活発な動きが要ると思います。」
K「僕は小学5年の時に京都に来ました。当時は青年会がすっかりしていて、僕ら



みんなよく遊ばせてもらったものです。子どもの目に一番身近なのは青年会で、青年が動けば子ども達も楽しいだろうし、お母さん方も来られて話し合いもできるし。それが今でも出来るようにと努力しています。」
N「最近の中学生は僕らの時と違って割りと忙しく、クラブ等で教会に来れないですわね(三君揃って教会学校でギター弾き等のお手伝いをしている。)」
I「子羊会とのつながりも強いそうですね。N「高野教会が子羊会の本部であるせいもありですが、こひつじの苑が創られる際に募金運動に参加し、以来子羊会のお手伝いが青年会に受け継がれています。動きやすいのはやはり青年ですから夏の宿泊旅行等のお手伝いをさせてもらっています。」
I「ウオーカーソンの時の子羊会のメンバーを見守るあなた方が気負いもなく、共に楽しんでる風にしてあげればよいのか分りませんでした。関わりを続けているうちにあのような絆が出来るかと思えます。」
N「確かに子羊会員と僕達の間で無理をしている所は無いですね。向う側も余り気を使わず歩いては休み、話をしながら一緒に歩く方が楽しいですよ。」
K「僕は堅い考え方より、遊びの考えの方が先行するので、普段強要され、束縛さ

れた生活が多い身障者の方達は、僕らとやら「遊び」の気持ちにうちとけるのではないのでしょうか。」
I「もっと魅力ある青年会にしようと思つて、隣接小教区運動会、夏のキャンプ、日曜学校の手伝いの他、時々ミサの後コ―ヒー、ジュース売り等をして、信徒の方達の親睦をはかっています。僕らみんな賑やかなのが好きで……。昔はもっと面白いやっていました。」
I「勤先で自分が信者であることについてK「会社では僕が信者であることは皆知っています。僕は宗教を出すよりも、キリストの教えである人への思いやりといったものを出す方がいいと思います。」
I「自分がキリスト者だと言わなくても、当り前の事をしてるだけで人に新鮮さを感じさせるといふ事を聞きました。信者の自覚みたいなものを感じて緊張します。」

「家族からの信仰の影響は?」
K「祖母、両親からの影響は勿論あります。でも僕は僕の信仰があります。ボランティアの方も僕の出来る範囲で自然な感じで自由に続けたいと思います。」
I「自発性に満ちた、豊かな信仰(教区ビジョン)に息づいている三人パウロ。(Y)

「愛は温い、正義は冷たい。誰がこんな事決めたんでしょね。旧約聖書の中の正義だって、愛を土台にしたものですよ。正義の欠けた愛は、ぬげがらの様だ。平和と人権を語る時、キリスト者は愛の故に不義を働く危険を担っているんだって事考えなくっちゃ……」 (MT)
「愛は思いやり……。サンゴ族とかタンゴ族など、若者の話し振りにかまびすしい批評を聞きます。教会内で通る言葉を、一般人に向けて平気である神経は、サン、タン両ゴ族なみの未熟さ?キリストの思いやりは相手に判る言葉にもあらわれる。諸宗教者会議に出て感じたこと。」 (Y)
「愛は知る事から……この言葉が好きです。でもあまりにも世間知らずなのを痛感する毎日。社会と共に歩むには、新聞をよく読む事もとても大切ですよ。社会と教会と、共に歩んでいる教区時報もご熟読のほど、よろしゅうに。」 (よ)
「残暑お見舞い申し上げます。海にノ山にノ昼寝?にと、よき休暇をお過ごしのことでしょう。この時期はいい。ふれあい」の時期でもあります。ふれあいも小さな「愛」のひとつではないでしょうか。いい夏をお過ごし下さい。」 (K)

「愛は温い、正義は冷たい。誰がこんな事決めたんでしょね。旧約聖書の中の正義だって、愛を土台にしたものですよ。正義の欠けた愛は、ぬげがらの様だ。平和と人権を語る時、キリスト者は愛の故に不義を働く危険を担っているんだって事考えなくっちゃ……」 (MT)
「愛は思いやり……。サンゴ族とかタンゴ族など、若者の話し振りにかまびすしい批評を聞きます。教会内で通る言葉を、一般人に向けて平気である神経は、サン、タン両ゴ族なみの未熟さ?キリストの思いやりは相手に判る言葉にもあらわれる。諸宗教者会議に出て感じたこと。」 (Y)
「愛は知る事から……この言葉が好きです。でもあまりにも世間知らずなのを痛感する毎日。社会と共に歩むには、新聞をよく読む事もとても大切ですよ。社会と教会と、共に歩んでいる教区時報もご熟読のほど、よろしゅうに。」 (よ)
「残暑お見舞い申し上げます。海にノ山にノ昼寝?にと、よき休暇をお過ごしのことでしょう。この時期はいい。ふれあい」の時期でもあります。ふれあいも小さな「愛」のひとつではないでしょうか。いい夏をお過ごし下さい。」 (K)



時報が対話 おう「書く手段なら 者も読む者は「互いにも、投稿者も編纂者も心を開けあ

本紙を福音宣教に役立たせるため、ご近所、お友だちにもお見せ下さい。